

独立行政法人日本芸術文化振興会 御中

令和7年度 国立劇場養成所 応募者確保のための調査

調査結果概要と今後に向けたご提案

2026年3月23日

調査目的

- ・国立劇場養成所の認知度向上
 - ・継続的な研修生応募者の獲得
- 上記の課題に対する今後の対応策の検討に資するデータを収集する。

調査方法

インターネット調査モニターへのインターネット調査

調査期間

2026年1月22日（木）～1月29日（木）

調査対象

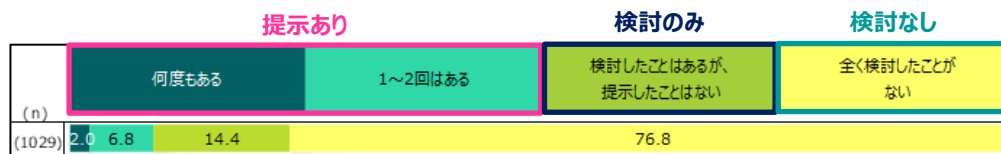
全国22～65歳男女 中学、高校、高専、専門学校の教員

- ・文化芸術系の進路相談を受けたことがある人（関心層）
 - ➔「生徒が進んだ・相談を受けた進路に伝統芸能系の進路がある」(SC5) または「生徒に伝統芸能系進路を提示したことがある」(Q10) または「生徒が進んだ・相談を受けた進路に伝統芸能以外の芸術系の進路がある」(SC5) かつ「伝統芸能へ興味・関心がある」(SC9)対象者
- ・伝統芸能への興味・関心が高くない人（一般層）
 - ➔関心層に含まれない対象者

ご提案にあたっての考え方

全ての教員を伝統芸能の進路「提示あり」/「検討のみ」/「検討なし」(Q10) の3セグメントに分け、
 <伝統芸能の進路提示を行う理由>に着目した。

本年度の調査では、「教員・生徒両軸での伝統芸能への接点として、伝統芸能を組み込んだ包括的なキャリア教育」
 「伝統芸能の職業に就くための道筋と職業としてのやりがいの提示」を軸とした提案を行う。



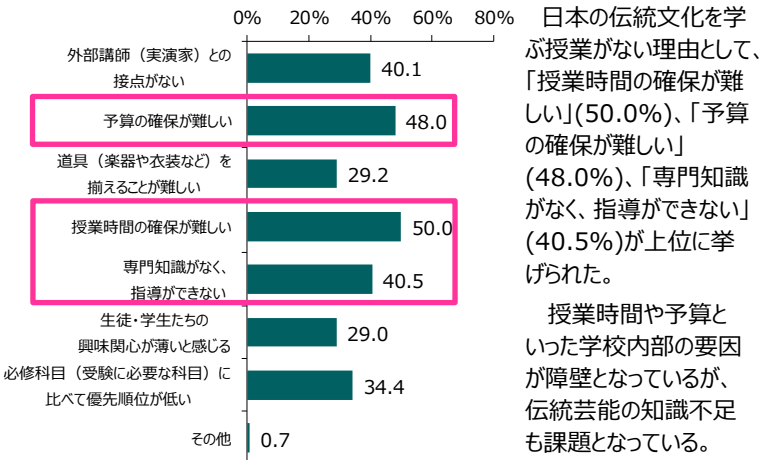
調査結果を受けてのご提案ポイント

- ① 伝統芸能を組み込んだキャリア教育の促進
- ② 伝統芸能を職業にするまでの道筋と職業としてのやりがいの提示

学校内での伝統芸能に関する学びの機会

勤務する学校の伝統芸能を学ぶ授業有無は、今までで一度もないという回答が6割強となり、過去にあった場合が約2割、現在実施しているとした回答が1割強となった。

全体(n=972)



日本の伝統文化を学ぶ授業がない理由として、「授業時間の確保が難しい」(50.0%)、「予算の確保が難しい」(48.0%)、「専門知識がなく、指導ができない」(40.5%)が上位に挙げられた。

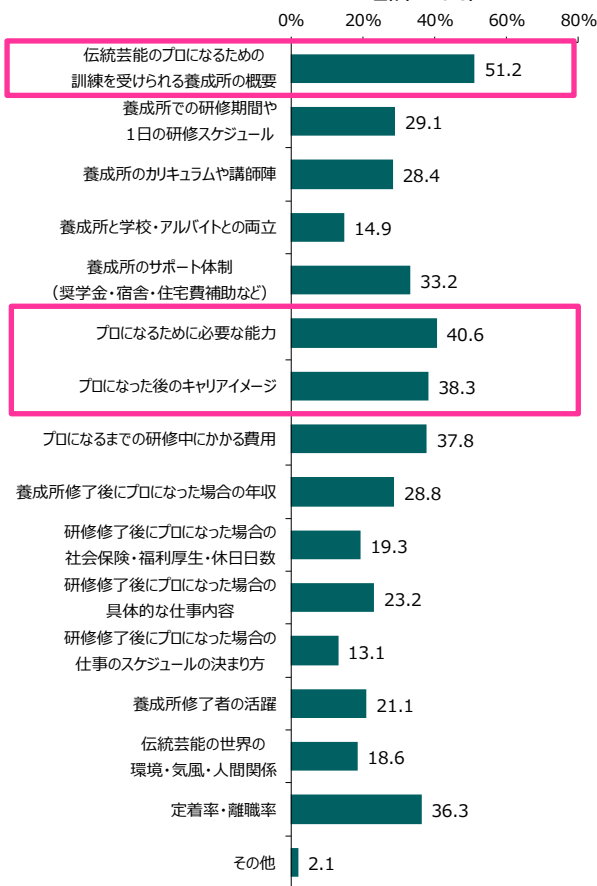
授業時間や予算といった学校内部の要因が障壁となっているが、伝統芸能の知識不足も課題となっている。

伝統芸能を職業として考える上で知りたい情報

伝統芸能を職業として考える上で、教員から特に求められる情報は、「伝統芸能のプロになるための訓練を受けられる養成所の概要」(51.2%)、「プロになるために必要な能力」(40.6%)、「プロになった後のキャリアイメージ」(38.3%)の順となった。

養成所の概要とともに、プロになる前後の能力・キャリア面のイメージ形成に必要な情報が求められていることが窺える。

全体(n=1029)

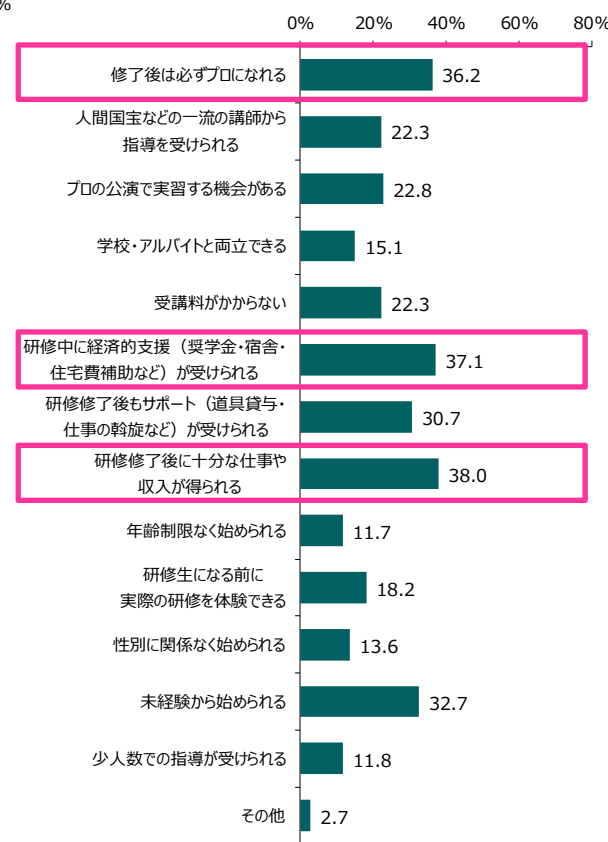


生徒・学生を通わせたいと思う養成所の条件

教員の目線で、生徒・学生を通わせたいと思う養成所の条件として、「研修修了後に十分な仕事や収入が得られる」(38.0%)、「研修中に経済的支援(奨学金・宿舍・住宅費補助など)が受けられる」(37.1%)「修了後は必ずプロになれる」(36.2%)が上位に挙げられた。

研修中～研修後の経済面・仕事面を含めた全面的なサポート体制の充実が望まれていることが分かる。

全体(n=1029)

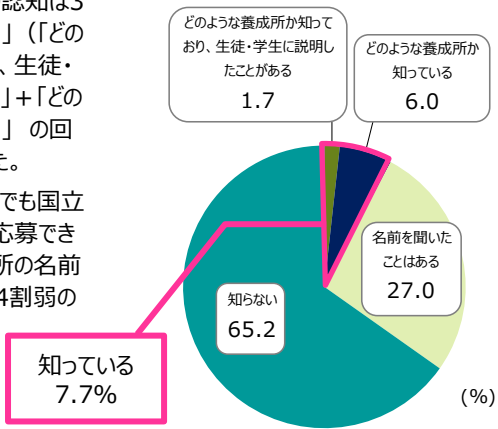


国立劇場養成所の認知

7割弱が国立劇場養成所を認知しておらず、名前だけの認知は3割弱となった。「知っている」(「どのような養成所か知っており、生徒・学生に説明したことがある」+「どのような養成所か知っている」の回答合計)は1割弱となった。

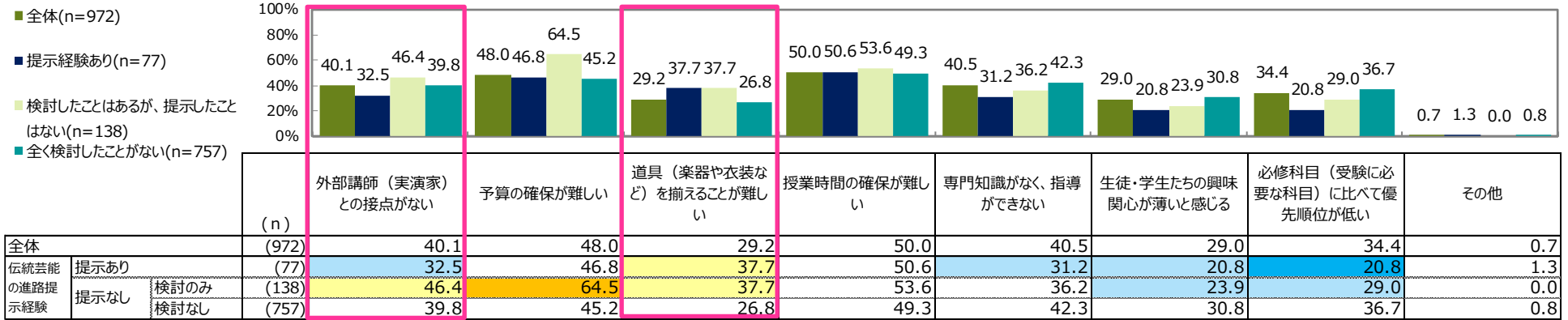
また、未経験の一般人でも国立劇場養成所の研修生に応募できることは、国立劇場養成所の名前まで知っている教員のうち4割弱の教員が認知していた。

全体(n=1029)



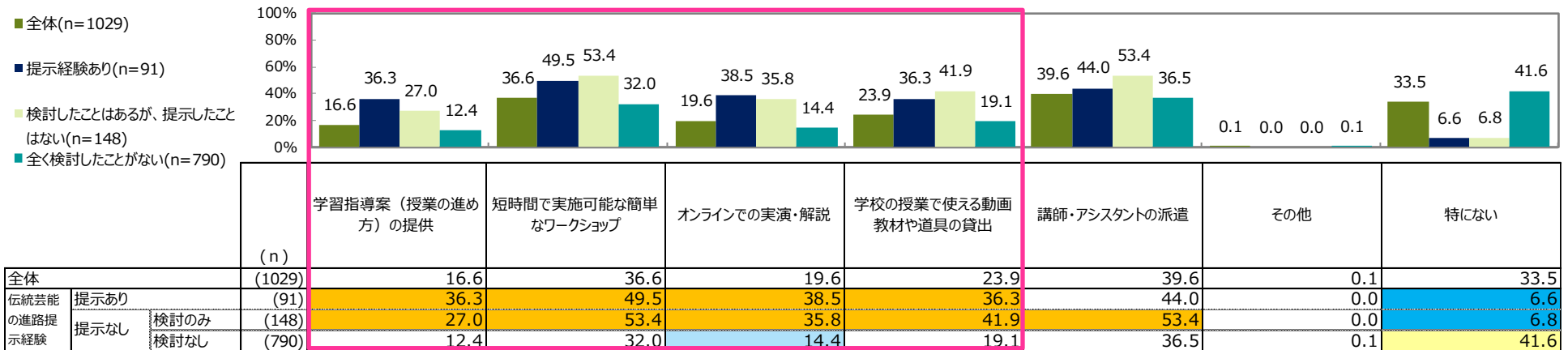
調査結果より抜粋

Q8.日本の伝統文化について、学ぶ授業がない理由としてどのようなことが当てはまりますか。(複数回答)



▲全体では、半数程度の教員が授業時間や予算の確保を理由として挙げている。伝統芸能の進路提示を検討するにとどめていた層では、予算や授業時間の確保を大きな理由として挙げるとともに、外部講師との接点や、進路提示経験あり層と同様に道具の確保も要因として挙げられている。

Q9.伝統芸能に関わる団体から以下の支援を受けたとして、協力したいと思えるものはありますか。(複数回答)



▲伝統芸能の進路提示経験あり・検討のみ層で共通して、授業の進め方、ワークショップ、オンライン解説、動画や教材の貸出といった多方面での支援を求めている。

日頃の授業接触による下地作りとしての伝統芸能授業拡大に向けた支援

キャリア形成の取り組みを行う中で、伝統芸能の授業を行っている学校の教員が伝統芸能の進路を勧めることが多く、“出前授業”が進路情報を得る機会として活用されていることから、どの学校でも伝統芸能について学ぶ授業を取り入れやすくする必要があります。

✓ 授業をパッケージ化して提供

➡出前授業のプランを提示し、簡便に取り入れられるようにする

✓ 地方向け動画教材の拡大

➡パッケージを取り入れられない（座学想定）の層も取り込む

✓ 資料配布による学校での告知依頼

➡進路指導を担当しているが伝統芸能への接点がない教員に対して、認知向上を図る

国立劇場養成所

◆ 出前授業

- ・内容 ⇒ 生徒・学生が道具に実際に触ってみるような体験型ワークショップ形式
- ・講師 ⇒ 養成所で実際に指導を行っている講師が授業を進行
- ・時間 ⇒ 短時間プランも用意（授業時間の確保が難しい場合にも対応）
- ・対象 ⇒ 地方の学校にも展開

◆ 教材提供

演目鑑賞を望む地方の学校に対して、演目＋解説の動画発信の拡大

出前授業・教材の提供

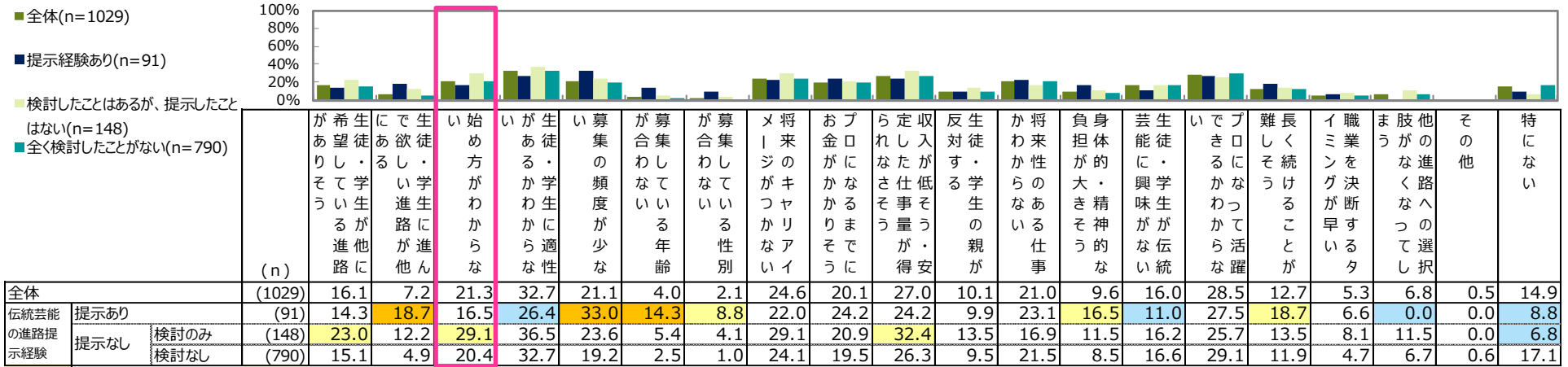
◆ 養成所に関する資料の 学校内配布・掲示

出前授業時や、教材提供時の学校・教員との接触時に、様々な教員の目につきやすい位置へ、ポスター掲示やパンフレット配布を学校へ依頼

学校

調査結果より抜粋

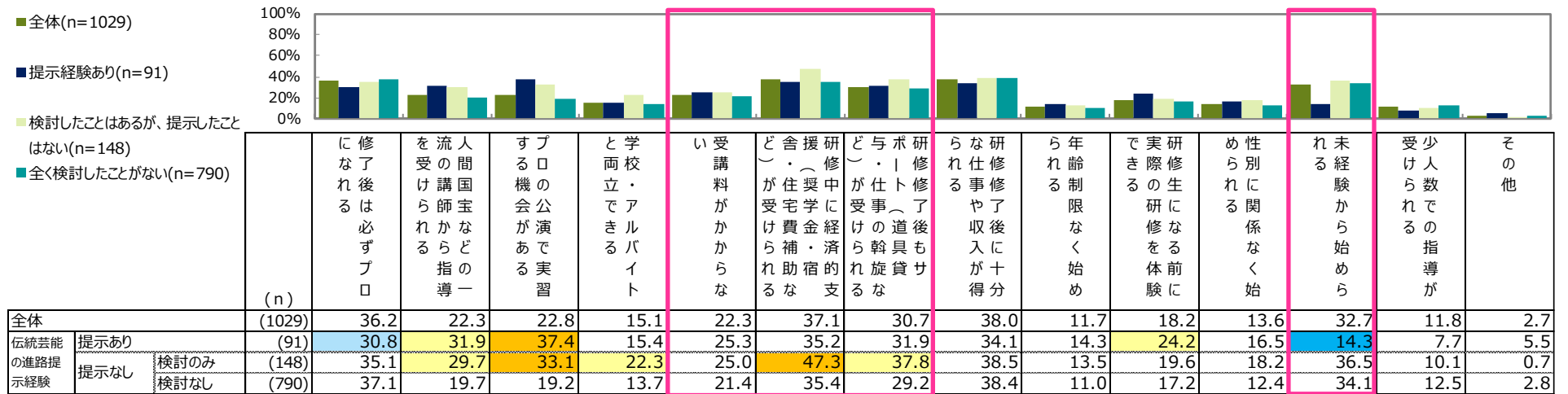
Q17.生徒・学生が伝統芸能の職業に就くことについて、あなたが不安に感じることは何ですか。(複数回答)



▲生徒・学生に対して伝統芸能の進路提示を検討にとどめていた教員では、進路として伝統芸能を考えたときに、始め方がわからないことがハードルとなっている。

Q23.あなたは、伝統芸能を学ぶ養成所がどのようなところであれば生徒・学生を通わせたいと思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。(複数回答)



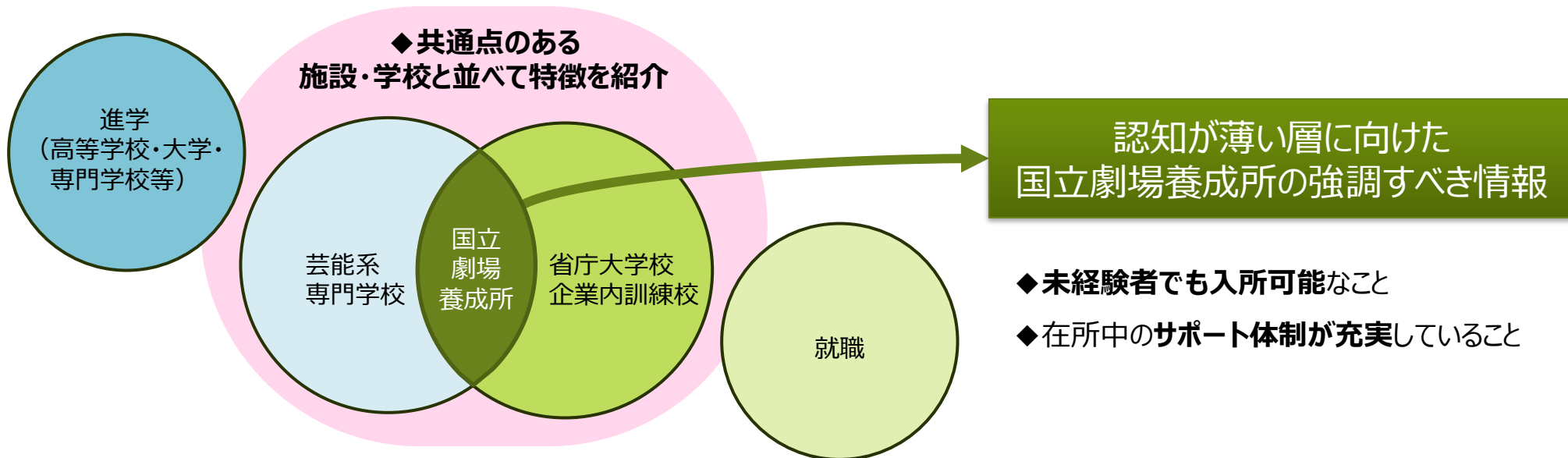
▲教員が求める養成所の在り方として、伝統芸能を進路として提示したことのある教員では、「未経験から始められる」の回答が1割強と提示経験がない教員に比べ少ない。また、研修中の経済的支援、研修終了後の仕事や収入面のサポートといった研修中~研修後のサポート体制の充実を望む声が多い。

認知が薄い層へのアプローチと、更なる内容理解に向けた“未経験”イメージの転換（関心層の増加）

伝統芸能を進路として提示した経験がある教員の回答では、実際に仕事に就いた生徒・学生が一定数存在し、教員からの進路提示がきっかけとして機能していると言える。一方で、伝統芸能の進路提示を検討するにとどまっていた教員では、進路として伝統芸能を考えたときに始め方がわからないことがハードルとなっている。伝統芸能への道を歩むときの選択肢に、国立劇場養成所が真っ先に入るように、どのような施設なのかをイメージしやすい形で知らせていくことが必要となる。

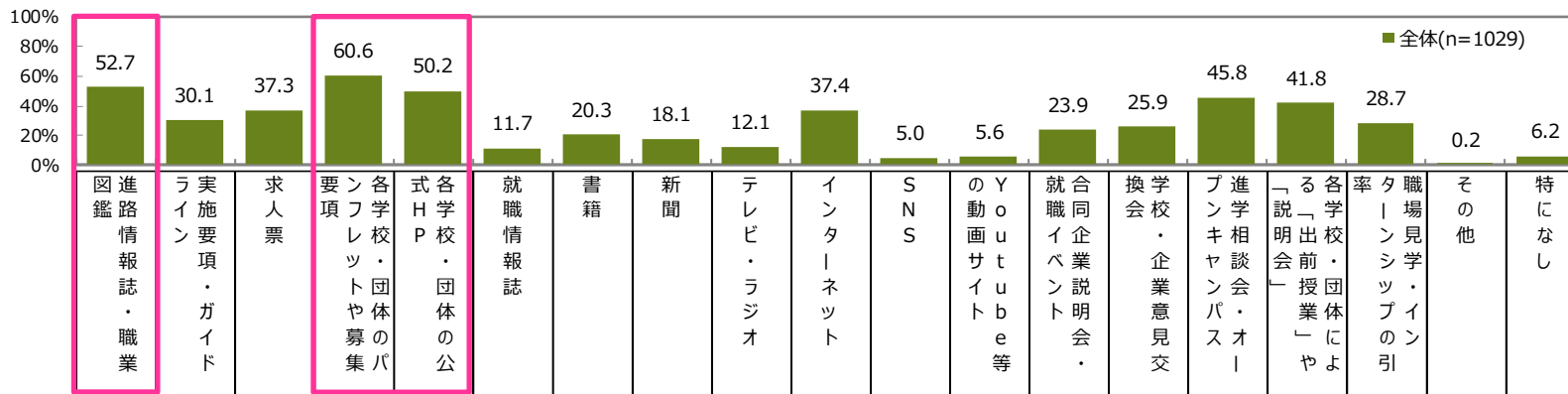
- ✓ イメージを持ちやすいように他施設と並べて紹介
- ✓ 経験者のみの進路イメージの払拭
- ✓ 在所中のサポート体制

- ➡ 既知の施設と並べて養成所のイメージを形成し、“伝統芸能の進路を提示したいが出来ない”ことを解消する
- ➡ 敷居を下げ、就職先との比較検討の土台に乗せる
- ➡ 送り出す側の教員へ安心材料を提供する



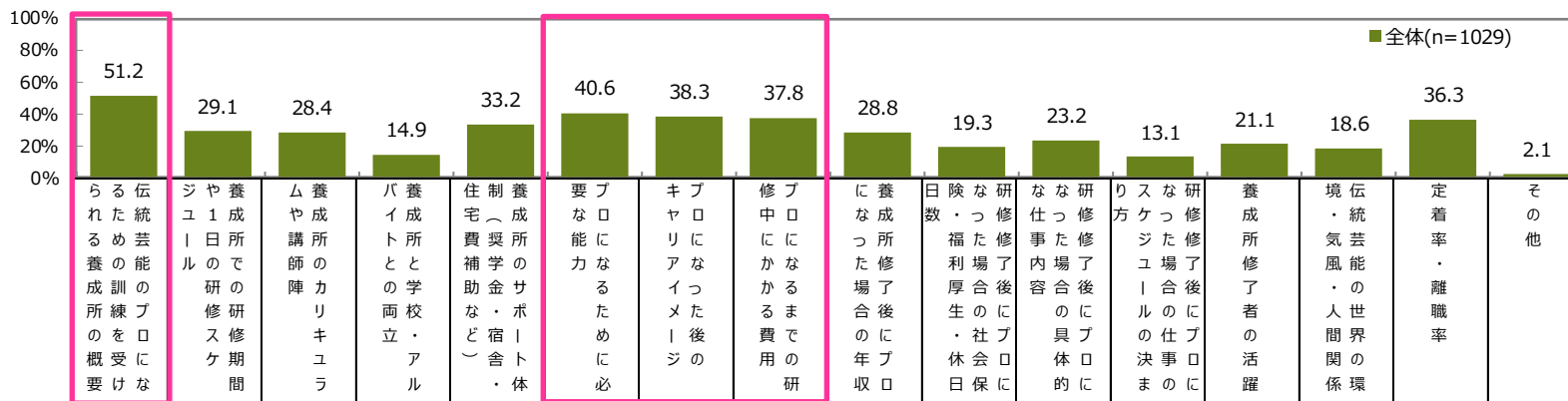
調査結果より抜粋

Q2. 生徒・学生への進路指導や情報提供にあたり、主にどのような資料・媒体から情報を収集していますか／していましたか。（複数回答）



▲ 普段の進路指導時には、半数以上の教員が学校・団体のパンフレットや公式HPを情報源としている。また、民間企業の発行する進路情報・就業図鑑も学校の種類を問わず過半数の教員が活用している。

Q21. あなたが伝統芸能を生徒・学生の職業として考える上で知りたい情報は何か。※職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。（複数回答）



▲ 教員が伝統芸能を生徒・学生の職業として考えるときに、養成所の概要情報が最も求められている。プロになるのに必要な能力や、キャリアイメージ、プロになるまでにかかる費用といったプロになる前後のイメージ・情報も職業として考えていく上で必要な要素となっている。

進路指導の実態に合わせた適切な情報発信方法

普段の進路指導時の情報収集方法として、半数以上の教員が学校・団体のパンフレットやHPを活用しており、学校のパンフレットについては手元資料として準備することも多い。下記のような学校種別での違いに考慮しながら、公式パンフレットやHPの掲載情報を更新していくことが重要である。

✓ 公式パンフレット・HPの有効活用

➡進路指導で全般的に用いられる情報源として、養成所の概要やプロになる前後のキャリア、費用等を掲載し具体的な情報提供の媒体とする

中学校

✓ 「プロになるまでのロードマップ + プロになってからの活躍事例」を掲載した簡易資料の用意

➡教員が保護者に対して情報を媒介する立場が強いことを考慮し、進路決定に対する影響が大きい保護者向けの資料提供によってそのまま情報が伝わるようにする

✓ 総合的な情報媒体への掲載

➡進路情報誌・職業図鑑や学校・企業意見交換会が有効となる

高等学校

✓ 生徒・学生自身が判断しやすい情報の提供

➡離職率、養成所のカリキュラム・スケジュール等の入所後の具体的な情報提供によって、生徒・学生自身が判断を下しやすくなる

✓ 総合情報媒体 + SNSでの発信

➡合同企業説明会での情報発信や、検討のみ層で比較的多いSNSの発信が有効となる

① 伝統芸能を組み込んだキャリア教育の促進

伝統芸能の進路を勧めたことのある教員は、伝統芸能の授業がある学校に所属していることが多く、**道具の貸し出しから授業の進行を含めた、総合的な学習パッケージを提供**し、伝統芸能を普通の授業に取り入れやすくする動きが望まれる。また、**鑑賞のハードルが高い地方への動画教材の提供**や、伝統芸能への接点が薄い教員にも周知を図るため**校内資料掲示・配布**も有効である。

出前授業

- ✓ 学習パッケージとして提供
- ✓ 養成所の講師が授業を進行
- ✓ 道具の貸出をする体験型
- ✓ 短時間プランも用意

地方向け施策

- ✓ 演目＋解説の動画発信拡大
- ✓ 地方でもパッケージを提供できる体制

接点が薄い教員への周知

- ✓ 学校内資料配布・掲示依頼

② 伝統芸能の職業への道筋と職業としてのやりがいの提示

伝統芸能の進路提示を検討するにとどまっていた教員では、進路として伝統芸能を考えたときに、始め方がわからないことがハードルとなっている。国立劇場養成所が進路の選択肢に真っ先に入るように、**類似した進路先と並べて想像しやすいキャリアの1つとして周知**していくことが必要となる。また、国立劇場養成所自体の認知と合わせて、**未経験でも入所可能なことや、在所中の経済面・環境面におけるサポート体制の周知**が必要となる。

普段の進路指導時の情報収集方法として、学校・団体のパンフレットやHPが多く活用されており、学校のパンフレットについては手元資料として準備することも多い。**学校種別での違いに考慮しながら、公式パンフレットや公式ホームページの掲載情報を更新**していくことが重要である。

国立劇場養成所の周知方法

- ✓ 他施設と並べてイメージしやすいよう紹介
- ✓ “経験者のみ”イメージ払拭
- ✓ 在所中のサポート体制周知
- ✓ 従来型とWebメディアの複合PR

中学校向けの情報

- ✓ 保護者も検討できるような情報
 - ◆ プロになるまでのロードマップ
 - ◆ プロになってからの活躍事例
- ✓ 総合情報媒体＋意見交換会での発信
 - ◆ 進路情報誌・職業図鑑
 - ◆ 学校・企業意見交換会

進路指導全般で活用される情報

- ✓ 公式パンフレット・公式ホームページ
 - ◆ 養成所の概要
 - ◆ プロになる前後の能力・キャリア
 - ◆ かかる費用

高等学校向けの情報

- ✓ 生徒・学生自身が判断するための情報
 - ◆ 離職率に関する情報
 - ◆ 養成所のカリキュラム・スケジュール
- ✓ 総合情報媒体＋SNSでの発信
 - ◆ 進路情報誌・職業図鑑
 - ◆ 求人票
 - ◆ 合同企業説明会
 - ◆ SNS発信